

原爆被害者問題に関する

社会科学的調査研究資料目録

浜 谷 正 晴

ここに収録した諸資料は、石田忠ゼミナール長崎被爆者問題調査班が昭和40年以降行なってきた資料調査の一部である。

これまでに発刊された資料目録としては、次のものがあげられる。

中国新聞社編『ヒロシマの記録——年表・資料編』(1966年)

原爆資料保存会編『原爆被災資料目録——昭和43年8月6日調』(1968年)

原爆被災資料広島研究会編『原爆被災資料総目録・第一集』(1969年), 『同・第二集』(1970年)

原爆資料保存委員会(長崎市)編『原爆資料目録——あの日の爪あと』(1970年)

「長崎の証言」刊行委員会編「長崎原爆に関する文献目録(昭和20年8月～46年7月)」(フランク・W・チンノック著, 小山内宏訳『ナガサキ——忘れられた原爆』, 新人物往来社, 1971年, 327-335頁)

この資料目録も、以上の成果におうこと大なるものがあるが、それらは、広島、長崎という被爆地中心であること、また、社会科学における調査研究資料の収集は他の分野に比して不備なこと、など、不充分なところも少なくない。そこで筆者は、特にその二つの不備を補うことに留意した。

この目録の作成要綱は、次の6点である。

(1) 社会科学者による調査研究

- (2) 被爆者組織、原水禁組織による調査研究
- (3) 国、地方自治体による調査研究
- (4) 自然科学者を含む被爆者問題研究者、救援活動家による社会科学的に意義ある調査研究
- (5) 社会科学的に意義ある体験記録
- (6) ルポルタージュは原則として省いた。ただし、朝鮮人被爆者など調査が全く不十分な諸問題については、それに関するルポルタージュを収録した。

資料目録を作成するにあたって留意すべきこととして、網羅性の追求と、資料収集の問題意識の明確化があげられよう。前者については、原爆資料の埋没性と散在性によって、まだ部分的であることは否めない。この点については、今後の資料調査によって補っていきたい。しかし、それは一研究者あるいは一研究班の力量を越える課題である。この意味で、日本学会会議を中心とした原爆被災資料センター設置運動と、「原水爆被災資料の収集、保存、利用に関する基礎的研究班」の研究成果に期待したい。

資料収集の問題意識は、要綱として示したが、「社会科学的に意義ある」という言葉で表現したように、現在及び将来における被爆者問題に対する社会科学研究の課題は何か、を明らかにしていく上で、重要な問題意識ならびに方法的視角を提示していると考えられるものを特に重視したことをつげくわえておく。

資料調査の過程において、山手茂（東京女子大）、伊東壮（山梨大学）、船津衛（山口大学）の三氏には大変御世話になり、三氏の貴重な諸資料を利用させていただいた。ここに記して感謝する次第である。

（目録は、①年代順に、②編著者、書名、掲載文献名・発行者の順に配列した。なお、編著者と発行者が同一の場合は発行者名を省略した。）

原爆被害者問題に関する社会科学的調査研究資料目録

1946年

広島市「原子爆弾による被害状況調査」(『広島市報』)

1948年

労働省婦人少年局長崎職員室：原爆による婦人傷痍者の現状調査(『長崎民友』9月23日号)

1950年

ABCC：原爆被爆生存者全国調査(52年発表)

中野清一・上田一雄・八木佐市「原爆影響の社会学的調査について」(日本社会学会大会報告)

1951年

青盛和雄「広島市の原爆による被害人口」(『統計の泉』1月号, 広島県統計協会)

中野清一・井上彌太郎「少年非行における原爆影響の検出」(日本社会学会大会報告)

広島大学社会学教室：第一次原爆孤児調査(～53年まで)

P. M. S. プラケット『恐怖・戦争・爆弾』(法政大学出版局)

広島市：原爆死没者調査, 原爆孤児調査(『広島市報』)

1952年

中野清一・井上彌太郎「家族関係と原爆影響」(日本社会学会大会報告)

久保良敏「広島被爆直後の人間行動の研究——原子爆弾, 原子力の社会心理学的研究 I」(『心理学研究』第22巻第2号, 27-34頁)

長崎市：被爆者実態調査

広島市：原爆傷害者調査(『広島市報』)

1953年

長岡省吾編『広島・原子爆弾による被害状況』

長田新「原子爆弾はなぜ投下されたか」(『世界』9月号, 174-183頁)

原爆被害者の手記編纂委員会編『原爆に生きて』(三一書房)

広島子供を守る会：小中学校在学中の原爆孤児の調査

長崎市城山小学校「被爆児の心身発達について」(『沈黙の壁をやぶって』所収)

1954年

久保良敏「原・水爆への態度」(広島平和と学問を守る大学人の会研究論集『原爆と広島』, 広島県教職員組合, 13-28頁)

中野清一「原爆影響の社会学的調査」(同上, 29-39頁)

森滝市郎「原爆孤児」(同上, 40-59頁)

高松棟一郎「原子爆弾の報道——その限界と制限」(『東大新聞研紀要』第3号, 1-26頁)

広島子供を守る会：広島市内小中学校における原爆孤児の実態調査

広島市未亡人会：原爆未亡人調査

1955年

世界平和集会広島世話人会編『八時一五分——原爆広島一〇年の記録』

広島県地域婦人団体連絡協議会編『原爆被爆者実態調査結果表——昭和30年8月1日現在』

原水爆禁止世界大会広島準備会編『原爆被害資料』

1956年

原水爆禁止広島協議会原爆被害者救援委員会編『原爆被害者実態調査報告』

原爆被災者の会『原爆被災者の実態』

長崎原爆青年乙女の会編『もういやだ——原爆の生きている証人たち』（1970年復刻、あゆみ出版社）

広島平和と学問を守る大学人の会平和運動研究班『広島の平和運動』（中間報告）

広島市：原爆被爆児童調査（『広島市報』）

1957年

広島平和と学問を守る大学人の会編『原爆被害者の歩み』、『原爆被害者救援の動き』

原水爆禁止広島協議会原爆被害者救援委員会編『原爆被害者実態調査報告Ⅱ』

河野実・遠田新一「広島における精神養子の実態の考察（Ⅰ）」（広島大学『政経論叢』第7巻第1号，117-144頁），「同・（Ⅱ）」（『同』第7巻第2号，195-221頁）

広島市：被爆者全市戸別調査（『広島市報』）

1958年

青盛和雄「原爆被害者の状況推移」（『統計の泉』8月号）

東京渋谷被爆者の会：被爆者調査

キリスト教広島被爆者センター：被爆被爆生活保護世帯実態調査

全日自労広島分会：失対事業労働者調査

広島県統計協会都市支部：広島市被爆者調査

広島市厚生局労政課：広島市失業対策事業労働者調査

広島大学社会学教室：原爆未亡人世帯調査，第二次原爆孤児調査（～60年）

広島市史編集委員会編『新修広島市史第二巻・政治史編』，『同・第四巻・文化風俗史編』（広島市）

1959年

広島市史編集委員会編『新修広島市史・第三巻・社会経済史編』（広島市）

長崎市総務部調査統計課編『長崎市政65年史』（全三巻完結）

今堀誠二『原水爆時代——現代史の証言・上巻』（三一新書）

青盛和雄「広島市の人口推移における一分析」（『統計の泉』No.107），「原爆の遺伝的影響に関する統計的研究」（『統計の泉』No.110）

石井金一郎「“生きていてよかった”か」（『中央公論』8月号）

一 橋 研 究 第 22 号

広島原爆病院『入院患者調査結果』

日本原水爆被害者団体協議会編『原爆被害の実相と被害者の苦しみ』

伊東壮「被爆者の実態と今後の方針」(『原水協通信』No. 11~12)

広島子供を守る会青年部(あゆみグループ): 祖母(父)孫世帯の生活実態調査(『あゆみ』第1号)

広島県地域婦人団体連絡協議会: 広島県内在住65歳以上の被爆者調査

福岡市被爆者の会: 福岡市在住被爆者実態調査

山手茂「原爆被爆者と原水爆禁止運動」(『広島大学人会会報』7月20日号)

広島市: 原爆被爆者健康手帳所有者の職業調査, 原爆孤老調査, 被爆生存者調査, 失対労務者調査

1960年

伊東壮「原爆被害者の現状と“否定”意識」(『思想』4月号, 14-23頁), 「『被爆者意識の前進』についての試論」(『被団協連絡』No. 25, 5月10日号, 12-17頁)

山口清「我々が常にぶつかっていくつかの問題について——救援運動の前進のために」(『被団協連絡』No. 24, 4月10日号, 8-15頁)

馬原鉄雄「原爆のなかの部落——ある部落青年の記録」(『部落』8月号, No. 127, 28-37頁)

今堀誠二「原水爆時代——現代史の証言・下巻」(三一新書)

青盛和雄「原爆の影響に関する人口統計的研究」(『統計の泉』8月号)

東京都多摩被団連: 被爆者調査

広島県統計課編『広島市内原爆被爆者統計報告——昭和33年10月1日現在』(広島県, 広島市)

広島市: “原爆被害者白書”(過去三年間)

広島市・厚生省: 被爆者健康診断予備調査

広島県・広島市: 被爆者の就職・結婚に関する共同調査結果

1961年

市村志郎「無数の問いかけを自らに課すこと——研究活動・体験記の運動を盛んにするために」(『被団協連絡』No. 36, 4月1日号, 15-19頁)

伊東壮「第七回原水爆禁止世界大会を終って」(『思想』8月号, 134-144頁)

中野清一「原爆と広島」(『新修広島市史・第一巻・総説編』第四編, 588-739頁)

Y. Kubo, “Data about the Suffering and Opinion of the A-bomb Sufferers”, *Psychologia* 4, pp. 56-59

R. ユンク『灰燼の光——甦えるヒロシマ』(原田義人訳, 文芸春秋新社)

広島市史編集委員会編『新修広島市史・第一巻・総説編』(広島市)

原水爆禁止日本協議会専門委員会編『原水爆被害白書——かくされた真実』(日本評論社)

岩手県原爆被害者団体協議会「原爆被害者調査資料」(『第五回定期総会議案』, 19-25頁)

岡山県原爆被害者の会: 被爆者調査

熊本県原爆被害者の会: 被爆者調査

1962年

志水清「広島原爆非被爆入市者についての統計的観察」(『広島医学』第15巻第4号)

志水清・渡辺嶺男・伊藤定人「広島原爆被爆者の社会医学的研究——1. 老令原爆被爆者の社会医学的観察(第1報)」(同上, 第15巻第1号, 15-58頁), 「同——2. 地域被爆者の社会医学的観察」(同上, 第15巻第4号, 73-87頁)

志水清・渡辺嶺男・伊藤定人・山本脩・渡辺正治「同——3. 被爆自由労務者の社会医学的観察(第1報)」(同上, 第15巻第8号, 122-129頁), 「同——4. 被爆自由労務者の社会医学的観察(第2報)」(同上, 第15巻10第号, 83-94頁)

静岡県原水爆被害者の会編『静岡県原水爆被害白書——地方に生きる被爆者の実態』

兵庫県原爆被害者の会編『あの日あの時』

原爆医療審議会: 広島県原爆被害者実態調査(昭和35年10月1日現在) 中間発表

長崎県衛生部: 原爆患者実態調査

1963年

志水清・渡辺嶺男・伊藤定人・山本脩・渡辺正治「広島原爆被爆者の社会医学的研究——5. 老令被爆自由労務者の社会医学的観察(第2報)」(『広島大学原爆放射能医学研究所年報』第4号, 75-86頁)

R. J. Lifton, "Psychological Effects of the Atomic Bomb in Hiroshima", *Daedalus* 92, pp. 462-497

佐久間澄・山口勇子・石井金一郎・山手茂『ヒロシマ・原爆と被爆者』(日本原水爆被害者団体協議会, 広島県原爆被害者団体協議会)

北海道原爆被害者団体協議会: 被爆者調査

1964年

松浦総三「占領軍の言論弾圧——原爆報道は秘匿された」(『思想の科学』1月号, 55-64頁, 73頁)

寺沢一「原爆判決の法的問題点」(『法律時報』2月号)

安井郁「原爆攻撃と国際法上の損害賠償」(同上)

米山桂三「被爆地広島にみる社会変動」(『法学研究』第37巻第12号, 57-97頁)

山手茂「原爆被爆者問題と被爆体験の意義」(『ひろしま』創刊号, 広島県文化会議)

R. J. Lifton, "On Death and Death Symbolism: The Hiroshima Disaster", *Psychiatry* 27, pp. 191-208 (邦訳「死と死の象徴について——広島の大災害」, エリザベス・ホリズ編『平和は可能である』, 鹿島平和研究所, 13-43頁)

山口勇子編『かあさんと呼ばれた——原爆の子らと歩いた十一年の記録』(草土文化社)

一 橋 研 究 第 22 号

森下弘「高校生の原爆に対する意識調査の概要」(『鉄樹』第四号, 広島県廿日市高校)
伊東壮「被爆者完全援護法制定に向けて——現行医療法の問題点」(『原水協通信』No. 20, 22-13頁)

佐藤行通「被爆者救援運動の方向と被爆者組織の大衆的確立」(同上, 6-10頁)

原水爆禁止日本協議会編「特集・被爆者救援——被爆者は要求する」(『原水協通信』No. 11)

原水爆禁止・被爆者救援広島長崎大会全国支持実行委員会「被爆者救援運動の方向と課題」(『核戦争を拒否する——原水禁大会討議資料』第四章)

原水爆禁止福岡県協議会・福岡県原爆被害者団体協議会編『福岡県下における被爆者の実態——その中間報告』, 『福岡県における原爆被爆者の生活実態——中間報告その2』

静岡県原水爆被害者の会編『静岡県原水爆被害者白書・第二集——私たちの完全援護法要求』

志水清「被爆長寿者の社会医学的研究(第1報)」(『広島医学』第17巻第4号, 48-81頁)

長崎市『原爆被爆者状況』

大阪府衛生部・大阪原爆被害者の会: 大阪の原爆被害者実態調査

1965年

山代巴編『この世界の片隅で』(岩波新書)

大江健三郎『ヒロシマ・ノート』(岩波新書)

竹内達『ヒロシマ・愛と死——生きている20年の傷痕』(芸文社)

今堀誠二「原水禁と被災白書運動——広島におけるある試み」(『世界』3月号, 186-196頁), 「原水爆被災白書運動のその後」(『世界』12月号, 117-124頁)

米山桂三・川合隆男「原爆と社会変動(一)——原爆被災者の社会人口誌学的考察と職業・職場集団の原爆体験」(『法学研究』第38巻第9号, 1-53頁), 「原爆と社会変動(二・完)」(同, 第38巻第10号, 33-76頁)

青盛和雄「新年度の広島県における統計調査と被爆調査にふれて」(『統計の泉』4月号)

志水清・山本脩・渡辺正治「被爆長寿者の社会医学的研究(第2報)——某住宅地区における社会生活と健康保持とに関する問題点」(『広島医学』第18巻第7号, 56-67頁), 「同(第3報)——某スラム地区における社会生活と健康保持とに関する問題点」(『広島医学』第18巻第10号, 65-72頁)

東北福祉大学被爆者調査班『宮城県における原爆被爆者の実態』

原水爆禁止京都協議会編『ビキニ被災11周年被爆20周年を迎えて——京都における被爆者の実態』(第1集)

長野県原水爆被災者の会編『長野県被爆者白書——被爆20周年にあたり私たちの訴え』

岩手県原爆被害者団体協議会編『いわての被爆者は願う・第二集』

原爆被害者問題に関する社会科学的調査研究資料目録

東友会（東京都原爆被害者団体協議会）編『東京の被爆者の実態』、『被爆者と住宅問題』

原水爆禁止愛知県協議会・北区被爆者懇談会・新日本医師会・日本福祉大学Ⅰ部学生会編『折鶴のねがい・第一集——愛知県在住原爆被害者の実態調査を終えて』

原水爆禁止日本協議会原水爆被害者対策部編『被爆者救援運動の手引——101の問答』

広島原爆被害者の手記編集委員会編『原爆ゆるすまじ』（新日本新書）

中野清一教授記念事業会編『仲間とともに——中野清一教授広島大学御退官記念論集』

談話会『原水爆被害者実態調査の実施計画に関する厚生省への要望書』

厚生省『昭和40年度原子爆弾被爆者実態調査・基本調査の手引』、『同・生活調査の手引』

兵庫県民生部『原爆被爆者実態調査集計表』

長崎県衛生部『長崎県原爆被爆者健康管理事業の20カ年のあゆみ』

広島市『原爆被害者対策事業概要書』

在日韓国居留民団広島県本部：在韓被爆者実態調査

長崎被爆者の手記編集委員会編『炎と影——被爆者二十周年の手記』（原水爆禁止長崎県協議会）

1966年

安部一成『『被爆白書運動』の課題——山口県の実験から』（『世界』9月号、208-217頁）

志水清・山本脩・渡辺正治・湯崎稔「原爆被災の社会的影響に関する研究」（日本社会学会大会報告）

近沢敬一「山口県原爆被爆者実態調査報告」（日本社会学会大会報告）

森下弘「高校生の原爆に対する意識及び知識の調査（続）」（『鉄樹』第6号、35-82頁、広島県廿日市高校）

平岡敬「韓国の原爆被災者を訪ねて」（『世界』4月号、229-235頁）

志水清・山本脩・渡辺正治・湯崎稔「被爆長寿者の社会医学的研究（第4報）」（『広島医学』第19巻第8号、70-73頁）、「某漁撈地区被爆者の社会医学的考察」（同上、第19巻第7号、55-59頁）

一橋大学石田ゼミナール「長崎の原爆被爆者の二十年間の足跡」（一橋大学学生研究誌『ヘルメス』18号、32-49頁）

東友会『首都の被爆者1』

大阪市港区原爆被害者の会『原爆被爆者実態調査集計表』

同西淀川区原爆被害者の会『原爆被爆者実態調査集計表』

原水爆禁止福岡県協議会・福岡県原爆被害者団体協議会編『福岡県下における原爆被害者の生活実態・その2』

広島自労原爆被害者の会『広島市を中心に失対事業に働く原爆被害者の実態と要求に

について』

胎内被爆者・被爆二世を守る会編『広島はたたかう』

日本原水爆被害者団体協議会専門委員会『原爆被害の特質と「被爆者援護法」の要求』

原爆被災白書推進委員会『日本政府による原爆被災白書の作製に関する要望書』

中国新聞社編『証言は消えない——広島の記事1』、『炎の日から 20年——広島の記事2』、『ヒロシマの記事——年表・資料編』（未来社）

広島市衛生局原爆被害対策課『原爆被害者対策の概要』

1967年

山手茂「原爆災害の社会学的研究——その方法論的一試論」（『経済と社会』第2号，1-16頁）

志水清「原爆被爆者の医療制度の現状と問題点」（『社会福祉ひろしま』，16-22頁）

小川政亮「被爆者援護法と社会保障法」（同上，2-6頁）

佐久間澄「原爆被害者援護の歴史と課題」（『第2回原水爆禁止科学者会議の記録』，75-79頁）

山手茂「原爆被爆者問題の調査と理論」（同上，79-83頁）

小川政亮「被爆者援護制度と社会保障制度との関連」（同上，91-95頁）

田沼肇「被爆者援護立法について」（同上，96-99頁）

山手茂『「被爆者援護法」はなぜ必要か』（『世界』4月号，186-193頁）

一橋大学石田ゼミナール「被爆者の生活——援護法制定の要求と関連して」（『ヘルメス』19号，52-73頁）

厚生省『原爆被爆者基本調査の概要』，『健康調査および生活調査の概要』

伊東社「被爆者調査に欠落したもの——おおわれた一般人との『格差』」（『朝日ジャーナル』11月26日号，36-40頁）

朴寿南「奪われた朝鮮人被爆者の人間性」（同上，40-43頁）

田村紀雄「原爆被爆者の問題」（『現代日本の社会問題・3——支配と差別の社会問題』，汐文社，129-175頁）

森下弘・宮田進・佐藤幸一郎・林恒子「高校生の原爆（被害）等に関する意識及び知識の調査——広島，佐世保，福島，札幌」（『鉄樹』第7号，21-94頁）

志水清「老令外国人被爆者の問題」（日本老年社会学会報告）

志水清・山本脩・渡辺正治・湯崎稔「都市近郊地域における定着家族と来住家族の家族構成の推移について」（日本社会学会大会報告）

R. J. Lifton, *Death in Life*, Random House, Inc., New York（邦訳『死の中の生命——広島の生存者』，朝日新聞社，1971年）

大阪市立大学文学部社会学研究室：広島市環境改善地区総合実態調査

日本学術会議：原爆被災資料に関するシンポジウム

朝日新聞社編『原爆・五〇〇人の証言』

原爆被害者問題に関する社会科学的調査研究資料目録

広島県原爆被害者団体協議会・原水爆禁止広島県協議会『原爆被害調査についての手引』、『広島における被爆実態調査中間報告書』

奈良原爆被災者の会・原水爆禁止奈良県協議会編『奈良県における原爆被災者の実態』

原水爆禁止大阪協議会被爆者救援委員会『被爆者訪問カード』、『傷あとはまだ癒えていない——大阪における原爆被害者の実態』

原水爆禁止日本協議会編『被爆者とともに』

日本原水爆被害者団体協議会編『被爆者に援護法を——30万人は訴える』

東京民医連医療社会事業部会『被爆者実態調査のまとめ』（全国民医連被爆者医療研究集会）

長崎県医療社会事業会『高令者入院患者の実態——長崎県内10施設における調査報告』

広島県原爆被爆者総合対策特別委員会『原爆被爆者入院患者実態調査』

長崎市民生部原爆被害者対策課『長崎市原子爆弾被爆者認定患者実態調査の概要』

長崎市原爆被爆者対策協議会『被爆者の生活記録——援護相談五〇例集』

広島県『原爆被爆者のしあわせのために——援護相談の手引』

1968年

米山桂三・川合隆男・原田勝弘「原爆被爆とその後の社会生活——地区事例調査による比較考察」（『法学研究』第41巻第3号，23-88頁）

原田勝弘「原爆被害世帯における家族解体とその再組織化——広島市F地区調査世帯の事例研究」（『慶応大学社会学研究科紀要』第8号，11-27頁）

中鉢正美「被爆者生活の構造的特質——広島地域における面接調査を中心として」（『三田学会誌』12月号，1-28頁）

大藪寿一『「原爆スラム」調査レポート』

隅谷三喜男「被爆問題の原点と現実」（『世界』8月号，109-117頁）

石田忠「原爆被害者のく立場」（『思想』8月号，127-136頁）

山手茂『「原爆災害の社会学」の課題』（『存在』I，No. 7，川島書店，1-3頁），「社会科学における原爆被害の研究実態」（『明治学院大学新聞』）

西島有厚『原爆はなぜ投下されたか——日本降伏をめぐる戦略と外交』（青木書店）

松井康浩『戦争と国際法——原爆裁判からラッセル法廷へ』（三省堂）

渡辺正治「被爆者の意識研究 序説（1）」（『広島社会福祉研究』第一号，1-5頁），「被爆体験の継承の意義と方法」（ヒロシマ研究会『一年のあゆみ——1967. 6～1968. 6』，0-2頁）

日本学術会議他『「原水爆被災資料センター」に関する長崎・広島懇談会——発言要旨』

被爆地図復元調査委員会「被爆地図復元の論理と原爆被災総合調査の構想」（『広島医学』第21巻第12号，41-48頁）

庄野直美・志水清・小川政亮「三〇万被爆者と援護法」（『世界』1月号，92-103頁）

一 橋 研 究 第 22 号

安部一成「被爆者福祉会館を建てる——原水禁運動と被爆者救援」（『世界』2月号，169-174頁）

東友会：原爆被害者調査

栗原淑江『特別措置法実施状況とその問題点』

日本原水爆被害者団体協議会編『二十二年の苦しみの中で原爆被害者は何を訴えるか——被爆者の現状と要求を語る懇談会から』

原水爆禁止広島県協議会・広島県原爆被害者団体協議会編『原爆被害者の世話活動の手引』（原水爆禁止日本協議会）

長崎憲法会議他『あの日から23年，長崎原爆被災者の実態と要求』

長崎原爆病院医療社会事業部『原爆被害者生活実態調査』

中国新聞社：原爆と平和の問題に関する世論調査

広島市：被爆者実態調査（『広島市報』）

竹内淑郎編『ぼく生きたかった——被爆二世史樹ちゃんの死』（宇野書店）

中島竜美「ドキュメント・背中合わせのヒロシマ——朝鮮人被害者の23年」（『月刊大衆』12月号，50-60頁）

平岡敬「告発する被爆朝鮮人」（『未来』No.23，2-6頁）

日本原水爆被害者団体協議会：広島・長崎の原爆による死没者遺族調査

1969年

志水清編『原爆爆心地』（日本放送出版協会）

川合隆男・原田勝弘・田中直樹「原爆被害者の社会生活の変化（一）——広島市地区事例調査にみる社会的再構造化過程」（『法学研究』第42巻第9号，48-92頁），「同・（二）」（同上，第42巻第10号，26-58頁）

原田勝弘「原爆被害者の家族周期にみる特質——家族崩壊とその後遺症をめぐる」（『社会福祉研究』第50号）

永原誠・鈴木二郎「原爆被害者」（信濃毎日新聞社編『現代の差別と偏見』，新泉社，197-213頁）

田沼肇「原水禁運動と被害者問題」（『文化評論』9月号，62-69頁）

山口大学社会学研究室『第2回山口県原水爆被害者実態調査報告書』

近沢敏一・船津衛・山口弘光「第二回山口県原爆被害者実態調査（一）」（『山口大学文学会志』第20巻第1号，1-10頁）

近沢敏一「山口県在住原爆被害者実態調査報告」（『社会の科学』3，57-82頁）

被害者実態調査委員会『愛知県下在住被害者実態調査（第1次）報告書』

静岡県原水爆被害者の会『静岡県原水爆被害白書・第三集——すすむ六百人の心の交流』

福岡市原爆被害者の会『福岡市内在住原爆被害者実態調査報告書（No.1）』

原水爆禁止福岡県協議会編『原水爆被害問題資料集——被爆黒書』

愛知県原水爆被災者の会編『全国地方自治体の被爆者救援状況及び参考資料』

原水爆禁止広島県協議会・広島県原爆被害者団体協議会他『被爆者医療の権利を守る
たたかひのために——桑原裁判』

東京都江戸川区被爆者の会：被爆者のくらしと健康の調査

広島市公的扶助研究会研究部『被爆者世帯の生活保護の実態調査』

広島県教職員組合・広島県原爆被爆教師の会編『未来を語りつづけて——原爆体験と
教育の原点』（労働旬報社）

広島平和文化図書刊行委員会編『ヒロシマの証言』（日本評論社）

中島竜美「ヒロシマ死没被爆者32人の証言」（『婦人公論』10月号，132-146頁）

梁厚「朝鮮の被爆者」（『思想の科学』8月号，26-30頁）

吉岡攻「韓国の被爆者は訴える」（『世界』2月号，170-178頁）

1970年

伊東社「私は何故被爆者運動をやるのか」（『未来』8月号，4-7頁）

山手茂「原爆被害問題と被爆者問題」（同上，7-10頁）

石田忠「社会調査家の立場」（『未来』9月号，12-14頁）

伊東社「被爆者問題と運動への総括的覚え書」（東友会『原点からの報告——被爆25周
年被爆地訪問慰霊墓参団の記録』，59-72頁）

小川政亮「被爆者問題25年間のまとめ・社会的側面」（『日本の科学者』Vol.5，No.9，
32，29-30頁）

石田忠「ある被爆者の戦後史（講演記録）」（『原爆文献を読む会会報』No.7，1-9頁）

草野信男・佐久間澄「厚生省『原子爆弾被爆者実態調査』報告の検討」（原水爆禁止日
本協議会編『ヒロシマにて——九〇〇人の訪問』，188-195頁）

庄野直美「ヒロシマ25年——核時代1/4世紀」（『世界』8月号，51-60頁）

金井利博『核権力——ヒロシマの告発』（三省堂）

西村豊行『ナガサキの被爆者——部落・朝鮮・中国』（新報新書）

森下弘「原爆教育研究——原爆体験の継承・断層とその克服」（『鉄樹』第十号，39-
104頁，広島県廿日市高校）

竹中芳編『見捨てられた在韓被爆者——日・韓両政府は彼らを見殺しにするのか』（日
新報道出版部）

深川宗俊『1950年8月6日——朝鮮戦争下の広島』（原水爆禁止広島市協議会）

R. J. Lifton, *History and Human Survival*, Random House, Inc., New York

東友会『原爆被爆者の子どもに関する調査報告』

富山県原爆被害者協議会『少線量被爆者の医療疎外について』

山梨県原水爆被害者の会編『きのこ雲・第1集——私たちは訴えます』

新潟県原爆被害者の会『新潟県の被爆者の実態』

長崎の証言刊行委員会編『長崎の証言1970』（あゆみ出版）

一 橋 研 究 第 22 号

静岡県原水爆被害者の会『静岡の被爆者——全戸訪問調査中間報告』

宮崎県原爆被害者の会編『閃光は今もなお——宮崎県内被爆者25年目の証言』

長崎原爆青年乙女の会編『もういやだ・第2集』

日本原水爆被害者団体協議会編『佐藤内閣総理大臣殿、私たちの要望をおきき下さい』

長崎県教職員組合長崎総支部・長崎市原爆被爆教師の会編『沈黙の壁をやぶって』(労働旬報社)

第五福竜丸保存委員会編『ビキニ水爆被災の証人第五福竜丸保存のために』

原水爆禁止日本協議会編『被爆者とともに』

1971年(9月まで)

近沢敏一・船津衛・山口弘光「第3回山口県原爆被害者実態調査報告」(『福岡大学人文論叢』第2巻第4号, 1-55頁)

第四回山口県原爆被爆者実態調査委員会・山口大学社会学研究室『第四回山口県原爆被爆者実態調査報告書』

田沼肇『原爆被爆者問題』(新日本新書)

田辺勝「被爆者運動が当面する諸問題」(『原水協通信』8月号, 2-14頁)

伊東社「原爆被害の実態とその政治的背景」(『月刊たいまつ』, たいまつ社, 2-9頁),
「風化するヒロシマ」(『中央公論』9月号, 342-355頁)

森下弘他「広島県内高校生の原爆等に対する意識及び知識の調査」(『“ひろしま”から学ぶ——高校用原爆・平和教育教材資料(試案)』, 2-30頁)

重藤文夫・大江健三郎『対話・原爆後の人間』(新潮選書)

中国新聞社編『ヒロシマ・25年——広島の記事3』(未来社)

原水爆禁止日本協議会編『炎の中を生きて——原爆被爆者の手記』(日本青年出版社)

長崎の証言刊行委員会編『長崎の証言1971』

田川清光『炎の中から——被爆衛生兵の証言』(長崎の証言刊行委員会)

“ひばく怪獣”問題資料集刊行委員会編『“ひばく怪獣”問題資料集——被爆者差別の固定化を許さないために』(原爆文献を読む会「ひばく怪獣」問題事務局)

孫さんを救援する市民の会編『資料集』

秋月辰一郎「死の町爆心地五〇〇メートル」(『朝日ジャーナル』8月13日号, 92-94頁)

鎌田定夫「核告発の証言としての記録と文学——長崎の原爆記録と証言運動から」(『民主文学』8月号, 126-136頁), 「ナガサキ・七〇年代の記録と証言運動——四半世紀目の証言と記録にみる新しい軌跡と展望」(『長崎の証言1971』, 12-22頁)

浜谷正晴「原爆被害者問題調査研究の歴史と方法」(『一橋研究』第21号, 54-65頁)

(住所: 国立市東2の13の25 曾我方)